



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第34巻 第7号) 購読要項・投稿規定

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第34巻第7号) 購読要項・投稿規定. 泌尿器科紀要 1988, 34(7): 1321-1322

ISSUE DATE:

1988-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119620>

RIGHT:

泌尿紀要

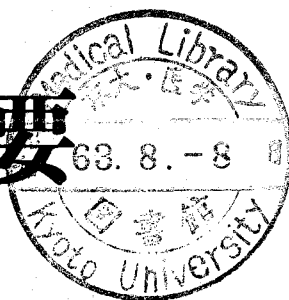
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 34, No. 7 July 1988

泌尿器科紀要

第34巻 第7号 1988年7月



【原著】

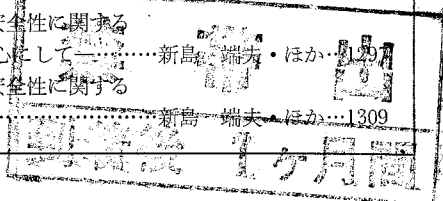
- ラットにおける尿酸の生体内動態……………杉本 俊門・ほか…1135
複雑性尿路感染症患者における血中 *Candida* 抗体の測定意義……………西尾 正一・ほか…1141
感染結石に対する Solution G 腎盂内灌流による結石溶解療法……………細見 昌弘・ほか…1145
黄色肉芽腫性腎盂腎炎の臨床的検討
一特に腎細胞癌との鑑別診断について……………横尾 彰文・ほか…1151
腎盂・尿管腫瘍の臨床的観察……………上田 陽彦・ほか…1161
外傷性脊髄損傷患者における膀胱変形について……………小川 隆敏・ほか…1173
Kock 回腸膀胱75例の手術成績：手技の改良と晚期合併症について……………岡田 裕作・ほか…1179
パペリントテストは動脈性インポテンスを診断し得るか？(英文)……………今川 章夫・川西 泰夫…1185
テトラサイクリン注入による睪丸水腫の治療……………増田富士男・ほか…1191

【症例】

- 右心房内腫瘍血栓摘出術を行った成人神経芽細胞腫の1例……………大西 周平・ほか…1195
嚢胞状変化を伴った副腎褐色細胞腫の1例……………児島 康行・ほか…1201
副腎 Myelolipoma の1手術例……………川嶋 秀紀・ほか…1207
黄色肉芽腫性腎盂腎炎8例の検討……………西村 昌則・ほか…1211
自然腎盂外溢流の1例……………浅川 正純・ほか…1217
小児先天性膀胱憩室の1例……………岩佐 厚・ほか…1221
尿膜管癌の2例……………松尾 康滋・ほか…1227
放射線療法を主体に治療した女子尿道癌の2例……………斎藤 政彦・ほか…1231
女子尿道憩室結石の1例……………江原 英俊・ほか…1235
女子尿道憩室腫瘍の1例……………山際 健司・ほか…1239
陰茎 Mondor 病の1例……………土井 康裕・ほか…1245
46,XX 真性半陰陽の1例……………児玉 光正・ほか…1249
比較的大きな両側精液瘤の1例……………水尾 敏之・ほか…1253
原発性睪丸カルチノイドの1例……………篠田 育男・ほか…1257
睪丸類表皮嚢胞の2例……………佐藤 滋・ほか…1265
原発巣(膀胱癌)の診断に先行し発見された
転移性精索腫瘍の1例(英文)……………石田 章・ほか…1269

【治験】

- 尿路性器癌骨転移の骨性疼痛に対するエルシトニン® の検討……………徳中 莊平・ほか…1273
複雑性尿路感染症に対する Ofloxacin の臨床的検討……………赤沢 信幸・ほか…1279
尿路感染症に対する Enoxacin (ENX) の臨床的検討……………永井 信夫・ほか…1283
エノキサシン3日間連続投与後の前立腺組織内濃度について……………森田 昌良・ほか…1293
前立腺癌に対する Buserelin (Hoc 766) の有効性および安全性に関する
臨床的検討 一単回、連続投与時の内分泌学的検討を中心にして……………新島 端夫・ほか…1297
前立腺癌に対する Buserelin (Hoc 766) の有効性および安全性に関する
臨床的検討 一鼻腔内投与用量の検討を中心にして……………新島 端夫・ほか…1309



購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 8,000 円（送料とも）を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1988年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文 5 頁（400字×20枚）、図 (Fig.) 10枚、表 (Table) 10枚までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文 3 頁（400字×12枚）、図 (Fig.) 5 枚、表 (Table) 3 枚までとする。
 - (3) 和文原稿は B 5 版 400 字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め（ただし、文節の始めに来る場合は大文字）、タイプで明瞭に記載する。
ワープロを使用する場合も B 5 版原稿用紙に 1 枚 20×20 字とする。
 - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名（教授、部長、院長、科長、医長など）、著者名の順に和文で記載する。下段に筆頭者名と、2 語からなる running title を付記する。
例；山田・ほか：前立腺癌・PSAP
 - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5 語（英文）以内の Key words、抄録本文の順に B 5 版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (6) 英文原稿は A 4 版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words（和文に準ず）、running title（和文に準ず）の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (7) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C などとする。
 - (8) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1. ..., Fig. 2. ..., Table 1. ..., Table 2. ... などと一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい（コピー不可）。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印（直接写真に貼付）などを入れ、わかりやすくする。
 - (9) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる（アルファベット順不可）。その数は 30 までが望ましい。和文は楷書で、欧文（ワープロ可）はダブルスペースでタイプする。
例：山田^{1,3,7)}, 田中ら^{8,11-13)}によると...

雑誌の場合—著者名（全員）：標題、雑誌名 巻：最初頁—最終頁、発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. J Urol 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修：経皮的腎碎石術 (PNL) および経尿道的尿管碎石術 (TUL) にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名（全員）：標題、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976

例 4) 辻 一郎, 小柳知彦: 小児泌尿器科疾患, 市川篤二, 落合京一郎, 高安久雄編, 第1版, 9B, pp. 48-71, 金原出版, 東京, 1983

- (8) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残し, オリジナルを書留で送付する。
(原稿送付先)

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301 号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (9) 論文の採否: 論文の採否は編集委員で決定し, 連絡する。
(10) 論文の加筆訂正: 審査の結果, 編集方針にしたがって原稿の加筆, 削除, および一部分の書き直しをお願いすることがある。また, 編集委員の責任において多少字句の訂正をすることがある。
(11) 校正は初校を著者による責任校正とし, 再校以降は編集部が行う。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
(12) 投稿にあたっては, 本誌を十分参考にして体裁を守ること。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。

迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円, 6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。

- (2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円, 英文は6,500円, 超過頁は1頁につき7,000円, 写真代, 凸版, トレース代, 別冊, 送料などは別に実費を申し受ける。

- (3) 薬剤の効果, 測定試薬の成績, 治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については, 掲載料を別途に申し受ける。

4. 別冊: 実費負担とし, 著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al: Prostatic cancer, PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

編集委員: 吉田 修(委員長) 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重
新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

泌尿器科紀要 第34巻 第7号 1988年7月25日 印刷 1988年7月31日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301 号 電話 (075) 752-0100

FAX (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入